

2019年度 佐久長聖中学 自己評価

学校教育目標	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して豊かな教養・感性・心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 一人ひとりが文武両道を実現できる環境を整える。 3. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。 4. 世界で活躍できる人材が育つ環境を整える。	1. 魅力ある授業が生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 2. 生徒の進路実現に向けて、進路指導体制の発展に努める。 3. 生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 4. 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 5. 学校の特色をアピールできるように積極的に情報発信を行う。

評価・・・A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

	評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導	大学入試改革に対応した具体的な取り組みができたか。	C	■日々の授業において、6年後を意識した発問や解答を生徒に発信できた。■表現力を高めるために、自分の考えを持つ時間を確保し、話し合う場面を意識的に設けた結果、積極的に記述しようとする姿勢が見られるようになった。■新傾向問題について教科内で話し合うことができた。	■入試改革の動向を注視しながら、常に取り組みの振り返りをしていくことが必要である。■今年度から45分授業になったこともあり、授業の進度を保ちながら、生徒たちに思考させ学習を深めさせる時間をいかに確保していくかが課題である。■国の方針・対応が揺れるなか、最新の情報を保護者に提供していくこと。
		アクティブラーニング(AL)・ICT機器活用等の授業改善をしたか。	C	■授業内でパソコンやプロジェクターを活用し、生徒同士で意見を共有させながら深く考えさせるなど、目的を達成させるための工夫を行うことができた。■生徒が主体的に取り組めるように発問を工夫している。■班や隣同士で考えさせ、他のグループと討論しながら新たな考えや疑問を発見させる時間をとることができている。	■アクティブラーニングの授業は時間がかかるので、定着のための演習をいつどのようを実施するか検討していく必要がある。■授業改善のための具体的な取り組みを検討する時間が十分確保できていない。■さらに発問を工夫し、生徒同士がより活発な意見交換ができるようにしたい。
		中高一貫教育の特性を生かした指導や教育課程の見直しを行ったか。	B	■6年間を見据えたシラバスについて、現状を踏まえ、また、次年度に向けて改訂を試みることができた。■高校、大学へとつながるよう意識している。■難関大コースはもちろんのこと、スキルアップコースの生徒に対しても、必要に応じて高校内容を先取りで扱い考えさせている。	■生徒個々に応じ、上位層に対する指導と与える課題、下位層への指導と補習について、よりよい方策を引き続き検討し実施していく必要がある。■生徒の実態を把握し、興味・関心を広げていく技術を習得し、それを職員間で共有していくことが必要である。■授業進度を確保しつつ、しっかりと定着をさせるための工夫。
2	進路指導	計画的・戦略的に組織的な進路指導ができたか。	B	■模試の結果を分析しやすいようにまとめ、各教科の指導に反映できるような働きかけを行うことができた。■模試結果や現状分析のツールを活用し、生徒の力の把握、理解に努め、学年・教科間で情報を共有している。■高校卒業時に結果を出せるように、中学の間で何を実施しておくべきなのかを検討した。	■希望進路を叶えるための学習といっても先が長いので、取り組みに個人差が生じてしまう。明確な目標を持たせ、それに向かってやり抜く力を身につけさせたい。■記述力は必ず求められるが、教師全体でこの資質・能力についての重要さが浸透していない。全教科で高めていきたい。■高校との連絡を密にしておくこと。
		保護者と連携した個に応じた進路指導ができたか。	C	■保護者懇談会を年2回、学級懇談会を年2回、また、探究や研修の発表会で年2～3回、保護者に来校していただく機会を設け、その都度、学習面等で不安を抱える保護者と話をすることができた。■家庭と現状についての情報の共有を図り、相談しながら、生徒に目標を示して取り組ませることができた。	■定期的な面談以外に、個々の状況に応じた面談を随時実行したい。■保護者懇談会が充実するように、生徒一人ひとりの将来の進路調査を実施して、それを踏まえた上での懇談会となるよう検討したい。■保護者の希望や悩みの整理と情報共有の仕方についての研究し、実践していきたい。
		生徒の自己啓発につながるキャリア教育であったか。	A	■体験学習をより良い人生を切り拓いていけるようになるためのキャリア教育と位置づけている。■2年生の自分発見や3年生のクエストの活動を通して、社会の一員であるという意識を高めさせることができた。■社会の変化とこれから求められる力や人間像について、生徒に伝えることができた。	■積極的に教師が動けば生徒もついてくる。しかし教師が動き過ぎるのも問題になる。生徒を見守る姿勢で、的確な指導ができるようになっていきたい。■生徒自身が積極的に情報を得て、学習・研究を深めていける働きかけのあり方を研究していきたい。
3	生徒指導	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	B	■ホームルームでの話を通じて、安心安全な生活に向けた取り組みの必要性を喚起した。■いじめに向かいそうな発言や行為があった場合はその場で指導できた。■常に相手のことを考えて行動するように生徒たちに呼びかけている。■授業時には早めに教室に向かい、生徒の動向に目を配っている。	■一部の生徒の心ない言動によって、他の生徒が傷つくことがないように、アンテナを高くして、教員同士の連携を強めていく必要がある。■学校と館との連携もさらに深めていきたい。■生徒たちに想像力、判断力、他人を思いやる力、忍耐力をいかにして持たせ、育てられるかを研究していくこと。
		体罰や暴言のない安心な学校づくりができたか。	A	■職員会や学年会、館ミーティングなどで職員間の情報交換を行い、生徒の特徴を踏まえた話し方や指導ができるよう工夫している。■以前から体罰や暴言のない学校づくりを心がけている。■体罰はもちろん、言葉遣いにも気をつけながら指導している。	■どのような性格の生徒でも安心して生活できる学校を目指したい。生徒の傍らには教師が必ずいるのだという意識をさらに高めさせられるようにしていきたい。■指導の中で、強い口調になってしまうことがある教員もいるので、一つひとつの指導について自己批評・相互批評しながら安心できる学校づくりを進めていきたい。
		校内外での安全・トラブル(SNS含む)に注意できているか。	B	■ホームルームでは機器の正しい使い方や利便性の裏にある危険性について話をしている。■SNS関連のニュースを用いながら、生徒には適切な扱い方を考えさせている。■生徒の何気ない会話にも耳を傾け、様々な情報をつかみ、速やかな対応ができるように心がけている。	■携帯電話・スマホを「使わせない」ではなく、「どのように使うべきか」に視点を置きたい。■休み時間の生徒の動きを把握する。SNSについての注意はさらに重ねて指導が必要。■SNSのトラブルへの意識を高めさせるために外部講師による講話が必要である。■生徒のスマホやネットの利用実態を把握すること。
4	保護者連携 地域連携	ホームページ・Classiなどで積極的に学校情報の発信ができたか。	A	■学校や館からの諸通信類を定期的に発行できた。また、Classiを用いて家庭にも情報が確実に伝わるように心がけた。■台風19号の影響で公共交通機関が麻痺した際には、オクレンジャーを使って家庭で必要としている情報をいち早く伝えることができた。	■学級通信の発行頻度は学級間の格差が大きい。ご家庭に学校やクラスの状況をご理解いただくためにも、各クラスで定期的な発行を心がける。■リアルタイムに情報を発信したい。■学校や館の現状を理解していただき、かつ協力していただける情報発信の仕方となるよう工夫したい。■教科通信も発行したい。
		保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	A	■素早く対応できている。■保護者からの帰宅書や問い合わせ、相談に対して、比較的即応する形で対応することができた。■何かあれば担当部署と相談し、できるだけ早く回答することができた。■保護者会から出された意見や要望には、できる限り誠実に回答するよう心がけた。	■保護者の学校に対する意見や子どもへの思いをもっと引き出せるように心がけたい。■保護者により寄り添った対応を心がけることや、家庭と学校が相互に深めながら尊重し合える関係を作っていくことについて、実践しながらその研究を進めていきたい。
		説明会・オープンスクール・学校訪問など積極的な募集活動ができたか。	B	■説明会では、授業やELPの体験、給食体験などで本校の良さをアピールすることができた。職員も笑顔で元気な対応を心がけた。■説明会などのタイミングに合わせて、地域の小学校や塾を訪問し、案内の配布を依頼するなどの募集活動を行った。■首都圏や名古屋など県外でも積極的な募集活動を行った。	■地元の優秀な生徒を確保するためにも、地元の学習塾や小学校への訪問を活発に行い、本校についての理解を深めていただく必要がある。■より多くの人に関心を持っていただき、実際に選んでいただけるような魅力ある学校・寮作りの研究を進めること。